

多宝塔

多宝塔は、同じく仁和寺にある五重塔とは似ても似つかないように見えるかもしれないが、それでも重要な祈祷の場として機能している建物である。五重塔は仏陀（日本では釈迦如来と呼ばれる）を記念しているものだが、多宝塔には未来の仏陀の一人である多宝如来が祀られている。五重塔にはしばしば、釈迦（仏陀）の骨の断片などの遺物とその基壇の下に埋められていて、仏陀の存在が感じられるようになっているが、多宝如来はこの地上にまだ現れていないので、この建物にもその遺物を収めることはできない。そのかわりに、この建物のデザインは仏教の中心的な経典のひとつである法華経における多宝如来に関する記述をベースにしている。すなわち、塔の形で仏陀とその弟子たちの前に姿を現す、というものである。実際、法華経によると、多宝如来は無限の彼方にある宝浄国に住んでおり、そこでは「宝塔」と呼ばれる塔の中で暮らしている、とされることが多い。多宝如来は真言宗においては特に重要で、したがって多宝塔は真言宗と関連のある寺院に主に見られる建物である。